

「第 32 回 市長と“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	輝北未来会議
日 時	平成 28 年 5 月 31 日（火）18 時 30 分から 20 時 00 分まで
場 所	百引校区公民館
参加者	輝北未来会議（重田嘉康市成町内会長外 13 名）
	市長、輝北総合支所長、地域活力推進課長

意見交換

- 1 地域コミュニティのあり方について
- 2 きれいな星空を生かした輝北うわば公園の活用策について
- 3 鳥獣被害対策について

1 地域コミュニティのあり方について

意見：輝北町では 4 年前に、39 あった町内会が再編により 4 つになった。当時から、次は地域コミュニティ協議会だと言われ説明を受けてきたが、どのようなものかイメージしにくい。

地域コミュニティを立ち上げた場合どのように変化するのか、どんなメリット、デメリットがあるのか。それと、吾平と高隅地域が立ち上げており、どのような取組をしているのか教えてほしい。

課長：平成 26 年 7 月に吾平、平成 27 年 7 月に高隈がコミュニティ協議会（以下、協議会）を設立した。

今年度、成果や課題などを検証する予定であるが、それぞれの地域で成果をあげているので発表したい。

まず、高隅地区においては、まちづくり、域外との交流として、観光、福祉、安全・安心、人材育成など協議会の中で各分野を設定し、それぞれの部会で活動をしている。

特に、観光部会では、高隈の地域資源を生かした観光客誘致のため、鹿児島市のバス会社に企画提案し、これまで 6 回のツアーにより 166 名の観光客を誘致している。高隈の観光で特徴的なのが、高隈で採れる山菜を使ったお弁当と地元ガイドなどのおもてなしで、福岡の旅行会社からも注目を浴びている。昨年、「ナイトミステリーツアー」や女性限定の「姫バスツアー」、親子で体験する「虫取りツアー」などがあり、中でも虫取りツアーは人気が高かったことから、現在福岡のバス会社と協議会で再実施に向け検討中とのことである。

福祉部会では、市社会福祉協議会との協同事業により、交通手段を有しない高齢者等に対して、毎週 1 回大型スーパー等へ買い物送迎をするドライブサロンを開始した。サロン機能により高齢者同志の交流が盛んになったと大変好評のようである。

吾平地区においては、大阪出身の地域おこし協力隊員が吾平の特産品、加工品を大阪で販売するため、「関西かごしまファンデー」や「かのやよかここフェア」

などでプロモーション活動を行っており、それを協議会がバックアップしている。

ほかには、ふれあい交流スポーツ事業として、空き店舗を使って、異業種・異世代の方々が一緒に触れ合う場所「コミスポあいら」をコミュニティ協議会で作った。昨年の10月～4月までの間で362名の方が利用している。

福祉部会では、買い物弱者対策で何が不足しているか域内の高齢者にアンケート調査を行ったところ、移動販売車が必要との回答が多かったことから、今年の9月頃にJA肝付吾平町と連携した移動販売車事業を行う予定となっている。

そもそも、なぜ協議会が必要かと言うと、少子高齢化や人口減少等の影響で、地域の伝統文化やイベントなどを維持・存続できない状況となっており、小さな町内会が一緒になって大きなスケールで進めていくということが重要になっている。

市長：デメリットというかうまく機能していない部分については、平成25年に策定した鹿屋市地域コミュニティ協議会推進計画の中で、中学校区単位で住民自治組織を形成することになっており、吾平は中学校の統廃合で吾平中しかないため、かなりの広範囲で形成しないといけない。コミュニティというのは、顔が見えることが大事であり、顔の見えない関係性では維持が難しい。あまり広くなると普段からの付き合いもないし、地域課題も違うため、結果的に一つにはまとまらないということに成りがちである。

輝北地域では39あった町内会を4町内会まで統合してきた。その中で、まずは、4つの町内会を活性化し、成り立つようにしてほしい。身近なことは町内会でやっていただき、町内会で解決できないような全体としての課題については、輝北として問題意識を一つにし、皆で連携して知恵を出しながら取り組んでいかないといけない。それがまさにコミュニティであり、未来会議だと思っている。未来会議には、町内会長をはじめ、産業振興、安全・安心、まちづくりなど色々な人が集まっている。組織の作り方は、地域でいろいろあると思うが、基本の組織として4つの町内会があり、ほかにキラキラ館やみどりの園、ふれあいセンター、まちづくり輝北などもあるので、横の連携がとれた組織にしてほしい。

まずは町内会でやれることやれないことを整理し、未来会議で全体を束ねるような組織にしていく。それが輝北のコミュニティ協議会のかたちだと思う。

それからもう一つは自主財源の確保である。なんでもかんでも補助では賄いきれないため、自分たちで観光客を呼ぶ、弁当を作って販売する、ガイド料を貰う等することで地域の活力に繋がっていくと思う。協議会を作るとコミュニティ交付金として活動経費が出るので活用してほしい。

吾平のコミュニティ協議会では、自主財源確保としてふれあいセンターや生活改善センターなどの指定管理を受けたり、美里吾平という観光ガイド誌を作って定期購読料を貰ったり、地域を元気付けるためのポロシャツを作成して販売したり、約1000万円の収入を得ている。

高隅のコミュニティ協議会では、山菜弁当の販売や高隈米の販売、そのほか生

涯学習業務を市から受託するなど財源確保に努めている。市の施策としてやらされるのではなく、自ら稼ぎ自分達がやりたいことをする。市の指示ばかりだとコミュニティではなくなるので、皆さんが自発的に動くことが大切であり、行政はあくまでも応援という立場である。

**意見：**高尾校区公民館は、台風で屋根がめくれたり、テラスが飛んだりして被害を受けている。そこで災害の避難所については体育館に変更してもらい、公民館については耐震化等の改修を進め、地域活動の拠点として使えないか。

**市長：**輝北町の平南、平房の公民館は、旧鹿屋や吾平に比べるととても立派である。高尾の公民館を集会施設として利用し体育館を耐震化すれば、約1千万円かかる。1千万円かけるなら、別のものを造った方がいいという意見も出てくるかもしれない。まず市としては予算要求や、議会に対して説明責任などもあるので、利用計画や年間利用者数などのデータを資料でいただければありがたい。

地震のとき、台風のときと災害によって逃げる場所も変わってくると思う。また体育館が耐震化されていないのなら他に避難所を探さないといけない。鹿屋ではなく広域で適地を検討することも一つの方法と考えている。

## 2 きれいな星空を生かした輝北うわば公園の活用策について

**意見：**輝北うわば公園からの星空はもちろんのこと、桜島を望むロケーションもとても素晴らしいが、輝北うわば公園の施設は老朽化しており、レストランは近々解体すると聞いている。解体後の利活用策などについて市長としてどのような意見を持っているのかお聞きしたい。

**市長：**うわば公園をどのように活性化させていくかは、まず輝北の方々にどれだけ強い思いがあるかだと思う。市としても今年度中にうわば公園を含めてどうかたちで地域活性化が出来るのかをとりまとめることにしている。その中でいろいろなアイデアが出てくるだろう。ただ、星空だけで売っていくのかどうかは分からない。

輝北は平成のはじめに4年間連続して日本一の星空になったが今、このコンクールがないため発信力がない。

私は日本一の星空と一緒に、世界一活動が活発な桜島の昭和火口が見えるというPRはどうかと思っている。高画質な望遠鏡を設置してマグマ・溶岩が見えるようなドキドキ感があったら良いと思う。

それから今年の8月に福岡でパン屋をされている人が地域おこし協力隊員として来ることになっている。うわば公園は、酪農が盛んな場所なので、ここで乳製品を使った加工品としてチーズやヨーグルト等を作り、パンと合わせてこの辺り

の野菜を使ったお店が出来ると良い。スターポークのカツサンドとかここでしか食べられないファーストフードを作っても良いかと思う。ここでお金を使ってもらってお金が回るような仕組みが出来たらおもしろい。

輝北うわば公園内のレストランについては補助事業で作っているので、平成 29 年 7 月くらいまで取り壊せない。ご存知のように 30 坪の家を解体するのに 100 万円程度かかる。レストランを解体するとなると 1000 万円以上かかるだろう。

意見：市長から、今年一年掛けて、輝北うわば公園のグランド・デザインを描くとのことだった。

市長：ふるさと会でうわば公園、天球館の活性化に賛同してくださる方は寄付をして下さいというような公募をすることもできる。そういうことをするためにも、ふるさと会をはやく発足していただきたい。応援団を増やす、そして資金協力をお願いする、そういうお金を集める努力も大切である。

総合支所長：PR ということで話をすると、去年は輝北町の学習パンフレット（天球館、風車、水力発電、ホテルなどの紹介）を作成し、鹿屋市内の小中学校各クラスに 1 部ずつ配布した。子供たちがそれを見て家族に輝北に行ってみたいと思うことで、一人でも多くの方が輝北を訪れてくれればと願っている。

それからふるさと会については、輝北の PR に熱心な関西居住者がいるので、パンフレット 300 部を送って PR していただいている。輝北町のふるさと会についてもその方を中心に設立できればと考えている。

### 3 鳥獣被害対策について

意見：今回、株式会社農栄が平南に来ることになり、地域でも喜んでいところである。農栄が取り扱っている芋については、現在、串良町の生産農家と契約しているものであるが、今後は輝北町でも取引農家が増えてくることが見込まれる。ただし平南地域は猪や猿などが多く、作物への被害が深刻である。市の支援を受けられればと思っているのでよろしく願いしたい。

市長：鳥獣対策は鹿屋市だけでなく全ての地域の問題だと思っている。平南がなぜ猿の被害が多いかと言うと、大崎と高隈で猿の通り道になっているからだと言った。対策には 3 つあると思っている。一つ目は猿や猪が来ないように環境整備をすること。餌付けしない、餌場を造らないことが大事である。二つ目は捕獲し、ある程度数をおさえる。三つ目は防止で、メッシュ柵や電気柵などをする。このようなことを組み合わせていくことが大事である。

昨年から集落ぐるみによる鳥獣被害対策として、鹿屋市の天神地区が県事業の

モデルになっており、専門家を呼んで毎月研修をしている。少しずつ住民の意識が高くなり自分の周辺を点検してみると、猿や猪が来るところに、柿やミカンがそのまま残っていて餌場になっていることに気付く。

まずは寄ってこないように、近づかせないようにすることが大事。

今年は鳥獣に発信機をつけて、行動範囲を調べることにしている。ただむやみやたらに調べても集団がばらける可能性がある。どこら辺を行動しているのかといった科学的な分析をしてみたい。

それから、私は鳥獣の駆除で手っ取り早いのが、猟師さんの生計が立てられるようにしてあげることだと思っている。年間 500 万円の収入があれば、猟で飯が食べられるのではないか。あとは、グラム 500 円とかでお肉が売れて流通にのれば、解決すると思う。ジビエの処理施設を作ってほしいと言う意見もあるが、捕獲してすぐに血抜き処理をしないと食べられないので、輝北地域の方はすぐに山で解体すると聞いている。

鳥獣被害対策については、いろいろと課題があるが、まずは専門家を入れて、1 日山に入って見てもらい、具体的な対策、納得できる方法を探していただきたいと思う。

市長総括：輝北の活性化については、一年掛けて、総合支所を中心に皆さんのご意見をいただきながら実効性の高い計画が出来上がるのではないかと期待している。将来の起爆剤となるよう、みなさんが知恵を絞って作り上げてほしいと思う。